

留学生による日本語作文における並列表現の かきかえの傾向

—キーボード入力過程データベースによる分析—

土屋順一（東京外国語大学留学生日本語教育センター）
tsuchiya@tufs.ac.jp

【要約】

留学生による日本語作文キーボード入力過程の中から、並列表現につかわれる助詞をしらべたところ、助詞の種類と並列する名詞の個数によって差があることがわかった。また、「一も一もV」という表現はむずかしいため中国語話者が回避する傾向がある、という説を検証したところ、そのような傾向はみられなかった。

1. 研究の方法

1-1. データ収集の方法

パーソナルコンピュータの画面上に示された自由記述式アンケートに答える形式で、留学生（能力試験 2 級程度以上、合計 761 名）に日本語を直接キーボード入力してもらい、その過程のディスプレイ表示を録画した。ディスプレイ上に示される質問の項目は以下のとおりである。

- (1) これまでに日本国内でどんなところへ行きましたか。
- (2) 大学に入ってから日本語の授業について教えてください。
- (3) 日本語でレポートを書いて出すことがありますか。書くとき、ワープロやコンピュータを使いますか。
- (4) 大学でコンピュータを使うことがありますか。どんなときに使いますか。
- (5) 留学する前と、留学してからと、どんなところが変わりましたか。
- (6) 日本や大学に関する感想など自由に書いてください。

1-2. 資料提供者

資料提供者は 761 名で、母語別に、おおい順に、北京語 97 名、マレー語 79 名、朝鮮語 74 名、モンゴル語 37 名、モンゴル語・北京語 31 名、ベトナム語 31 名などである。また、このほかに中国帰国者 17 名、日系人 10 名、幼少時に日本に居住した留学生 3 名など、一般的な留学生とはことなる経歴をもつ者もふくまれている。

在日歴の平均は 30 か月ほどであるが、来日前に長期間本格的に日本語を学習した者は、来日後数か月でも調査が可能である一方、未習で来日した者（262 名）は 1 年程度以上たってから調査するため、在日歴と日本語能力が比例するとはかぎらない。

1-3. データベース

入力文字数は 299,986 字、入力時間は約 330 時間である。この基礎データを再生して、訂正、削

除、挿入などごとにすべての過程をデータベース化した。このデータベースは、46,786 データ、消去文字数約 99,184 である。

2. 分析の方法

今回は、このデータベースから質問(1)と質問(2)にかぎって、並列表現「と」「や」「とか」「、」(点)の選択とかきかえの傾向、および「ーもーも V」という表現の選択の傾向について分析した。

3. 分析の結果1 「と」「や」「とか」「、」(点)

3-1. 並列する名詞の数と使用する助詞

表1：質問(1)「これまでに日本国内でどんなところへ行きましたか。」の回答

名詞の数	2個	3個	4個	5個～9個	10個以上	合計
と	69	13	7	3	0	92
や	51	15	4	1	0	71
とか	12	6	0	0	0	18
点	67	99	82	168	33	449
合計	199	133	93	172	33	630

表2：質問(2)「大学に入ってから日本語の授業について教えてください。」の回答

	2個	3個	4個	5個～9個	10個以上	合計
と	91	5	1	1	0	98
や	112	8	0	1	0	121
とか	26	6	1	0	0	33
点	36	34	28	4	11	113
合計	265	53	30	6	11	365

質問(1)では、いったことのある日本の地名を並列する例がおおいので名詞の数がおおき、おおい場合に「、」(点)がつかわれることは当然とおもわれるが、名詞数が2個の場合にも「と」と「、」(点)がほぼ同数、3個以上の場合には「、」(点)が圧倒的多数であった。つまり、たとえば「京都と大阪へ行きました。」と「京都、大阪へ行きました。」がほぼおなじ割合でつかわれ、「京都、大阪、神戸へ行きました。」が「京都と大阪と神戸へ行きました。」より圧倒的におおい、という結果であった。また、「や」より「と」の方がややおおい、「とか」は非常にすくない。

質問(2)では、日本語関連の授業科目名を並列する例がおおいので、名詞の数は質問(1)とくらべてすくない。名詞数が2個の場合には、「と」と「や」がおおいが、3個以上の場合には、「、」(点)が圧倒的におおい。「とか」はすくない。

「名詞の数が3個以上の場合には「、」(点)がおおきつかわれる」ということは、「並列表現に助詞が複数つかわれることはすくない」ということでもある。

はなしことばを材料にした山内(2009)では「や」より「とか」が圧倒的におおいつかわれる、と報告されているが、かきことばを材料にした本調査では、正反対の結果となった。

3-2. 列挙の中止はどの助詞に多く見られるか

並列表現において、名詞、助詞、名詞、助詞、名詞と列挙していった、名詞でおわって文を完成するのではなく、名詞、助詞、名詞、助詞とタイプしてから助詞を削除して文を完成した（つまりもつとつづくはずだった列挙を途中で中止した）例の数をかぞえた。

「と」の率がひくいのは、最初に並列する名詞を確定してからタイプすることがおおく（かきかえられにくい）、「、」（点）の率がたかいのは、名詞をおもいだしながら列挙していく場合がおおい（かきかえられやすい）ためとみられる。中間の「や」と「とか」では、「とか」の方が率がたかい。

表3：並列を中止した事例数（質問1と質問2の合計）

	数	率
と	3例	1.6%
や	12例	6.3%
とか	5例	10.0%
点	79例	14.1%

3-3. 助詞のかきかえの傾向

表4：助詞のかきかえのパターンと用例数

	助詞の交換	複数の助詞をそろえる	複数の助詞をまぜる	その他	合計
とか→と	3	0	0	2	5
とか→や	7	0	0	0	7
とか→点	1	0	1	1	3
点→と	8	1	7	1	17
点→や	6	1	1	0	8
点→とか	6	0	1	1	8
と→や	8	0	1	0	9
と→とか	1	1	1	0	3
と→点	2	3	0	1	6
や→と	4	0	0	0	4
や→とか	0	0	0	0	0
や→点	4	0	1	0	5
合計	50	6	13	6	75

並列表現において、助詞をかきかえた例を検索し、つぎの4種類に分類した。

- 1) 単純に助詞をいれかえる例（「古文とか読解とか日本の文化に関する」→「古文や読解や日本の文化に関する」）
- 2) 混在している複数の種類の助詞を1種類にそろえる例（「福岡、広島と福山、札幌」→「福岡、広島、福山、札幌」）
- 3) 1種類の助詞が複数つかわれているものの一部をほかの助詞に変更して、結果的に複数の種類の助詞が混在するようにする例（「長野県、大阪、神戸」→「長野県や、大阪、神戸に行きました。」）
- 4) その他の変更例

「、」（点）→「と」の変更がもっともおおく、3.2でのべた「かきかえられやすい」助詞から「かきかえられにくい」助詞への変更の例が相対的におおかった。

また、「、」（点）→「と」の変更で、複数の種類の助詞が混在するようにする例がおおいは、母語の「A, B, C and D」という並列表現の影響もあるとおもわれる。

4. 分析の結果2 「へもへもV」

「中国語話者は「へもへもV」の構造を回避する」という説（中俣(2012)）を検証してみた。761名中、並列の「も」を使用した者は122名であった。

4-1. 中国語話者と非中国語話者

非中国語話者552名中「も」使用者は89名、率16.1%、「へもへもV」使用者は5名、率0.91%で、中国語話者209名中「も」使用者は33名、率15.8%、「へもへもV」使用者は1名、率0.48%であった。たしかに中国語話者の方が率はひくい、どちらも非常にすくない、というべきであり、「へもへもV」の不使用が「中国語話者の特徴」とはいえないのではないか。（そもそも中俣は中国語話者と日本語話者を比較しており、非中国語話者日本語学習者との比較はおこなっていない。）

4-2. 「へもへもV」の難易

中俣(2012)は「この構文は相当困難な項目である可能性が高い」とのべているが、今回の調査の数すくない「へもへもV」使用者6名は比較的日本語レベルがひくく、上級者は逆に「へもへもV」をつかっておらず、これが習得が困難で上級者のみが使用できる項目であるとはかんがえにくい。

表5：「へもへもV」使用者の属性と用例

母語	来日前学習歴	在日歴	用例
アラビア語	未習	29か月	「読解も聴解の授業もあるが簡単なので役に立たない」
トルコ語	3年週5時間	5か月	「どっかいても聴解も漢字の勉強もやります」
マラコ語	3年主専攻	4か月	「漢字授業もこと表現の授業もうけています」*
フランス語	3年主専攻	4か月	「広島にも九州の高松にも行きました」
ベトナム語	未習	12か月	「にぎやかな町も静かな町もあります」
北京語	8か月毎日3時間	33か月	「内容も重点も違います」

*「こと表現」は「口頭表現」訂正されなかった。

5. 結論

留学生による日本語作文キーボード入力における並列表現を分析した結果、以下のような傾向がわかった。

- (1) 並列表現に「、」（点）が多用される。並列する名詞の数がすくなくともつかわれる。
- (2) 「、」（点）の連続は回避されないが、おなじ助詞の連続は回避される傾向がある。
- (3) 「とか」の使用はすくない。
- (4) 「と」「や」はかきかえられにくく、「とか」「、」（点）はかきかえられやすい。
- (5) 「へもへもV」の表現は、母語に関係なく、あまりつかわれませんが、習得が困難だからつかわ

れないとはいえない。

今回は分析の対象としなかった、動詞をふくんだ並列表現「NにVし、NにもV」「NをVたり、NをVたり」や、助詞「など」との共起関係についても、今後検討してみる必要があるだろう。

この研究は、日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「日本語を母語としない人による日本語作文過程の分析のためのデータベース」(平成 23-25 年度 代表者：土屋順一 課題番号：23520613)の成果の一部である。

参考文献

土屋順一・土屋千尋(2002)「外国人による日本語作文の副助詞「も」のかきかえの傾向」『第 14 回日本語教育連絡会議報告発表論文集』 pp. 36-41

中俣尚己(2012)「作文課題による並列表現の習得研究-「も」と「とか」を中心に-」『2012 年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp. 235-240

山内博之(2009)『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房